

注意点1



+α音を取り入れたメロディアスなトライアド

このフレーズでは、2本弦によるトライアドを発展させたパターンが登場する。1小節目はEマイナー、3小節目はDメジャーの基本的なトライアドとなっている(図1-a)。それに対して、2&4小節目は少し変則的(図1-b)だ。まず2小節目は、1弦20フレットをルートにしたCメジャー・トライアドを変化させたパターンで、B音(1弦19フレット)とA音(1弦17フレット)を加えている。これと同様に4小節目では、1弦19フレットをルートにしたBメジャー・トライアドをベースに、A音(1弦17フレット)とC音(1弦20フレット)を取り入れているのだ。このような音を入れることでフレーズをよりメロディアスにすることができる。

図1-a Eマイナー&Dメジャー・トライアド

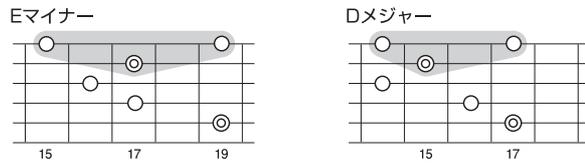
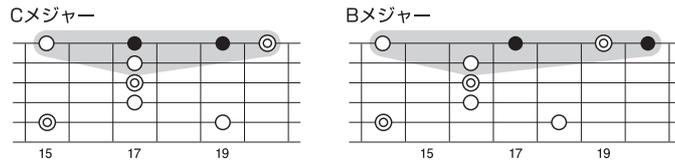


図1-b Cメジャー&Bメジャー・トライアド+α ●...+α音



注意点2



弾きやすさを追求するためアップから弾き始めるべし!

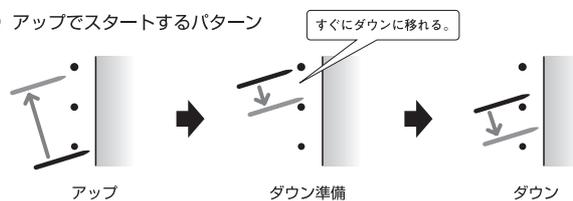
デモ演奏CDを聴くと、このフレーズは非常にリズムカルなので、オルタネイトだけで弾いているのかと思う人もいるだろう。確かにこのフレーズは、オルタネイトだけでも弾けるのだが、インサイド&アウトサイド・ピッキングが多く出てくるので、難易度が上がってしまう。そこで上昇弦移動をすべてダウン・エコノミーにすると良いだろう。そのため、1音目をアップでスタートしているのに注意してほしい。こうすることで、ピッキング軌道の無駄が減るので弾きやすくなるはずだ(図2)。プリングはすべてアップ・ピッキングで弾けば、リズムやアクセントも取りやすいぞ。

図2

× ダウンでスタートするパターン



○ アップでスタートするパターン

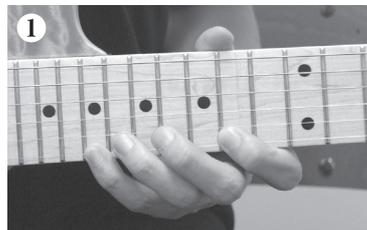


注意点3

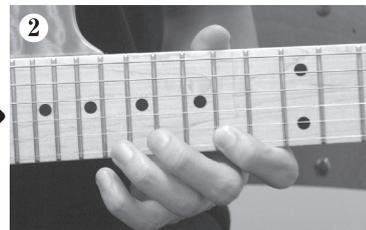


人差指と中指のポジションは保ち続けよう

このフレーズでは、2弦の押弦は中指に固定して弾くようにすると良い。2&4小節目では、トライアドのポジションが変化するので指使いに注意し、しっかりと対応してもらいたい。特に4小節目のBメジャー・トライアドには気をつけよう。写真は、4小節目2拍目となっているが、1弦19フレットを小指で押さえると同時に、1弦14フレットを人差指で押弦すること(写真①)。また、中指による2弦16フレットの押弦時でも、人差指は1弦14フレットを押弦し続けるようにしてほしい(写真③)。さらに人差指で2弦をミュートするように心がけると良いだろう。



1弦19fを小指で押弦。人差指もセットで押弦しよう。



小指のプリング。人差指による2弦のミュートを忘れずに。



2弦16fを中指で押弦。人差指は動かさないこと。



1弦14fを人差指で押弦。人差指は2弦もミュートする!